現代アートの鑑賞事業2021

砂が水になる？ビーズが宙を舞う？

～的場やすし 流動床インターフェースとスプラッシュディスプレイの世界～

と　き　2021年8月21日（土）から29日（日）10：00～19：00
ところ　ゆめたろうプラザ　ギャラリー
料　金　入場無料
※8/23（月）は休館日、8/29（日）は16：00まで

的場やすしさんにQ&A

Q1 理学部生物学科をご卒業後、企業で自動車材料の研究を経験し、その後、認知症高齢者介護施設の運営に携わっていたとのことですが、イメージとして全く違う分野を巡った印象があります。どうして現在のように、仮想の世界と実物体を融合させる作品を制作することになったのでしょうか？それまでの経験が作品づくりに生かされていますか？

A1 自動車会社や高齢者介護施設は、「いろんな工夫をして便利な物を手作りする祖父」を見て育った影響です。子供のころから「いろいろな物を（失敗しながら）作る」という事を繰り返してきたので、ものづくりの技術が身についたと思います。それと、かなり小さい子供のころから「アイディアを考える・優れたアイディアを見る」ことが大好きでした。1999年に兄と共同で、小さな虫と遊ぶ内容の「Micro Friendship」というメディアアート作品を作り、海外で発表しました。この時に「メディアアートは、アイディアとものづくり技術を生かせて面白い」と感じてそれ以降この道に進みました。

Q2 全国で開催されている「魔法の美術館」で展示されていた「SplashDisplay」を見たときに是非、武豊町の子どもたちにも見せたいと思い今回の展示をお願いしました。先生の作品にはテレビで見た砂が水のような性質になる「流動床インターフェース」や、高齢者向けや視覚障がい者向けから工事現場で働く人向けまで、様々なジャンルの作品があるようですが、アイデアはどんなときに浮かびますか？また作品をつくるときに大切にしていることはありますか？

A2 アイディアは、ファミリーレストランでひとりでお茶を飲みながら考えているときが一番良く浮かびます。「大切にしていること」というか重視していることは、私の人生観が「とにかく楽に生きる」ということもあって、「複雑な操作とか無くて、とにかく楽に、簡単に扱える」ということです。

Q3 先生ご自身の作品で、お気に入りの作品はありますか？

A3 アート作品ではありませんが、「信号機カメラ」と「ツイドア」です。私の今までの作品の中でダントツに良いアイディアだと思っています。「信号機カメラ」は全盲の方に歩行者用信号機の色を音声で伝えるスマホアプリです。「ツイドア」は認知症高齢者の徘徊の発生を家族に伝える装置です。「福祉関係だから良い」という訳ではなく、シンプルさや効果など、総合的に考えて今までで一番良いと思います。ただ、2つとも学会でデモ発表した際はあまり評価してもらえませんでしたので、評価基準が人とずれているのかも…とも思います。

Q4 ゆめたろうプラザのテーマは「芸術と科学のハーモニー」です。先生は「芸術」と「科学」の関係をどのようにお考えですか？

A4 「芸術とは何か」はよくわかりませんが、私の中では芸術は「見たり聞いたり体験すると良い気分になる物」です。「科学」は芸術作品の内容や、作るための技術に使える（うまく使うと良い芸術が作れる。 どんどん使いたい）と思います。

Q5 今後どんな作品を作りたいですか？

A5 「感動するような作品」です。

的場やすし（プロフィール）

信州大学理学部生物学科卒業後、本田技術研究所における自動車材料研究、認知症高齢者介護施設の運営等を経て現在は、ものつくり大学 客員教授、お茶の水女子大学 学部教育研究協力員。仮想世界と実物体を融合した新しいインターフェースを研究し作品を制作している。
これまでに、ACM SIGGRAPH （Art Gallery、Emerging Technologies）や、Ars Electronica、魔法の美術館への作品出展をはじめ、デジタルコンテンツグランプリ アート部門 インタラクティブ賞、Laval Virtual Awards 2013 グランプリ、アジアデジタルアート大賞展インタラクティブアート部門 優秀賞、WBSトレたま年間大賞（2013年、2017年）など受賞多数。